第4回. 連立1次方程式1-基本変形- (三宅先生の本, 1.4, 2.1の内容)

岩井雅崇 2022/05/12

1 連立1次方程式

定義 1 (係数行列, 拡大係数行列). m 個の式からなる n 変数連立 1 次方程式

$$\begin{cases} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \cdots + a_{1n}x_n = b_1 \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + \cdots + a_{2n}x_n = b_2 \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \cdots + a_{mn}x_n = b_m \end{cases}$$
 に対して

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} \boldsymbol{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix}$$
とおく.

行列 A を連立 1 次方程式の係数行列といい、

$$[A:m{b}] = egin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} & b_1 \ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} & b_2 \ dots & dots & \ddots & dots & dots \ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} & b_m \end{pmatrix}$$
を連立1次方程式の拡大係数行列という.

これにより上の連立 1 次方程式は Ax = b とかける.

例 2. 連立 1 次方程式 $\begin{cases} 2x & + & 3y & = & 7 \\ x & - & 4y & = & 9 \end{cases}$ について,係数行列は $A = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 1 & -4 \end{pmatrix}$ で,拡大係数行列は $[A: {m b}] = \begin{pmatrix} 2 & 3 & 7 \\ 1 & -4 & 9 \end{pmatrix}$ である.

例 3. 連立 1 次方程式
$$\begin{cases} 3x_1 & -2x_2 & +x_3 & +4x_4 & =7\\ x_1 & -3x_3 & +x_4 & =5 \text{ について},\\ 2x_1 & -x_2 & +9x_3 & =0 \end{cases}$$
係数行列は $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 & 1 & 4\\ 1 & 0 & -3 & 1\\ 2 & -1 & 9 & 0 \end{pmatrix}$ で,拡大係数行列は $[A: \textbf{b}] = \begin{pmatrix} 3 & -2 & 1 & 4 & 7\\ 1 & 0 & -3 & 1 & 5\\ 2 & -1 & 9 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ である.

2 行列の基本変形

定義 4 (行列の基本変形). 行列の次の3つの変形を(行)基本変形という.

- 1. 1 つの行を何倍か (≠ 0 倍) する.
- 2.2つの行を入れ替える.
- 3. 1つの行に他の行の何倍かを加える.

拡大係数行列の(行)基本変形を行うことで連立1次方程式が解ける(連立方程式の解き方に関しては、第6回資料を見てください).

例 5. 連立 1 次方程式 $\begin{cases} 2x & + 3y - z = -3 \\ -x & + 2y + 2z = 1 \end{cases}$ を考える. これを拡大係数行列の基本変形 x + y - z = -2 と式変形で解いてみて、その対応を表すと下の通りとなる.x + y + y = -2

 $^{^1}$ 途中で現れる「① + ③ \times (-2)」は「行列の 1 行目に 3 行目の (-2) 倍を加える」あるいは「1 行目の式に 3 行目の式の (-2) 倍を加える」を意味している (一応教科書に従った記法である).

以上より解は x = 1, y = -1, z = 2 である.

3 演習問題

演習問題の解答は授業動画にあります.

1. 連立 1 次方程式
$$\begin{cases} x_1 + x_2 - x_3 = 1 \\ 2x_1 + x_2 + 3x_3 = 4 & \text{を解け.} \\ -x_1 + 2x_2 - 4x_3 = -2 \end{cases}$$